

実戦トライアル

第1回

国語

- 注意：1. この問題用紙は、先生の「始め」の合図があるまで開いてはいけません。
2. 解答欄は、この用紙の裏面です。答えは、すべてこの解答欄に記入しなさい。
3. 先生の「やめ」の合図があったら、指示に従って解答欄のあるこの用紙だけを提出しなさい。

クラス	
番 号	
氏 名	
性別	
男 女	
総得点	
	／100

6																5		4		3			
																(4)	(1)	(6)	(1)	(3)			
																43	40	35	30	②			
																				25			
																					5		
																(7)	(2)	36	31	26			
																					(5)	(2)	44
																37	32	27					
																			(9)	(4)	38	33	
																(6)	(3)	45					42
																			じる	に	(5)		
28																							
	29																						

領域別得点	
① 説明的文章	
	/ 27
② 文学的文章	
	/ 29
③ 古典	
	/ 18
④ 韻文	
⑤ 漢字・語句・文法	
	/ 16
⑥ 作文・表現	
	/ 10

6	10 点
6	/ 10

4	5	1 点 × 16
5		/ 16

3	2 点 × 9
3	/ 18

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(注) 篩＝細かいものと粗いものをより分ける道具。
伝播＝伝わり広まること。

〈山崎正和「海と文明」より〉

求心力＝円の中心に向かって働く力。
焦慮＝気が焦^{あせ}っていららすること。

(1) 線①「一つの文明を緊張させて、内部から変革を促す力を持っていた」とありますが、海を渡った文明にこのような力が備わっていたのはなぜですか。その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 文明は海を渡ったが、風俗習慣や話し言葉、階級社会といった文化までは伝わらなかったから。

イ 海があつたことで、文明は間隔を置いて断続的に伝播していったから。

ウ 西洋文明が東洋に至るのに二千年、アメリカ文明が太平洋を渡るのに二百年を費やしたから。

エ 海を渡った文明には、鉄砲や黒船の例のように、他文明を巨大な衝撃で襲う特質があつたから。

(2) 線②「彼らは二重の孤独になりがちであつた」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

Ⅰ「二重の孤独」とは、どのようなものですか。その内容が説明された一文を本文中から探し、初めの五字を書き抜いて答えなさい。

Ⅱ「二重の孤独」の中で「彼ら」は何を促されましたか。内容として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 世界標準に意欲的に目を向け、それについて行かない自国の風土に焦慮した。

イ 異質の風俗習慣を体験し、文明を支える文化の細部を体で味わった。

ウ 自他の文明を深く愛するとともに、違いの大きさをなめてはならないと知った。

エ 異文明の全体を理解し、文化交流の難しさと、それに必要な覚悟を学んだ。

(3) — 線③「大量の普通の人間」と反対の意味で用いられた表現を、本文中から十字以上十五字以内で書き抜いて答えなさい。

(4) — 線④「旅人は一つの日常から別の日常へと移るだけで、自他の文明を強く意識する機会は乏しくなった」とありますが、このようになった理由として適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人々が文明の空白の時間を経験せずに異文明を訪れるから。

イ 風俗・文化が太平洋の両岸で全く違わなくなったから。

ウ 通信衛星やインターネット等、通信伝達の技術が発達したから。

エ 情報が即時に伝えられるようになり、感動や新鮮さが失われたから。

(5) — 線⑤「節としての海」に備わっていたのはどのような力ですか。本文中から四十字以上四十五字以内（句読点や符号も字数に数えます）で探し、その初めと終わりの三字を書き抜いて答えなさい。

(6) ①・②に入る最も適切なことばを、本文中からそれぞれ漢字二字で書き抜いて答えなさい。

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈森谷明子「南風吹く」より〉

(注) 恵一は航太と幼なじみの同級生。

五木中学校は五木島にある唯一の中学校。

(1) 〰線 a e について、漢字はその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

(2) 〰線①「来島京は表情のない声でそうさえぎった」とありますが、このときの来島京の心情を説明したものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 河野先輩は自分と出会ったばかりであるうえに、俳句では短歌の半分ほどの文字しか使えないので、自分が短歌にこめた気持ちを俳句で詠むことなどできるはずがなく、これ以上先輩とのやりとりに時間を費やしたくないと考えている。

イ 河野先輩が自分の歌に目をとめてくれたことは嬉しいのだが、先輩の褒めことを真に受けて誘いに乗ってしまうと、後で大変な目に合うことは分かってきているので、喜んでいることを悟られないように感情を押し殺そうとしている。

ウ 河野先輩が自分の歌の良さを説明すればするほど、逆に先輩が自らの俳句のできばえに自信を持っているように思われたので、俳句その

ものに興味は湧いたが、先輩の口車にのせられないように、無関心を装って先を促している。

エ 河野先輩の口から、自分が短歌にこめた気持ちが語られていくうちに、胸に秘めていた思いを暴き立てられるような気がして不愉快になり、これ以上自分の思いが解き明かされてしまう前に、早く話を終わらせようと思っている。

(3) A B に入る最も適切なことばを次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A ア 負け犬 イ 野次馬 ウ 濡れ鼠 エ 閑古鳥
B ア 前書き イ ただし書き ウ 筋書き エ 能書き

(4) 〰線②「河野女史の声が熱を帯びてきた」とありますが、このときの河野女史の思いを説明した次の文の 〰 を指定の字数で埋めて、文を完成させなさい。

〈その場に集まった面々に対して、俳句は文字数も少なく、リフレインが使いにくいうえに、 〰 あ(十五字以内) けれども、短いなりに、気持ちを表現することができると訴え、だからこそ来島京の、「迷ふ日々涙して立ちすくむ日々 すべて愛しき日々年終はる」という歌にこめた 〰 い(三十字以内) という思いは、
「日記買ふ」という言葉によってさらに豊かに表現できるのだと伝えようとしている。〉

(5) 〰線③「航太は彼女が目をするのを見ないようにした」とありますが、このときの航太の心情を説明したものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 来島京が河野女史の話の後で突然涙を浮かべていることに戸惑ったが、来島が感情を表面に出して涙している様子を眺めるのは彼女の心に勝手に入り込むように思われて遠慮した。

イ 来島京が河野女史の話に共感を覚えて涙を浮かべていることに驚いたが、心配して声をかけても来島に顔をそむけられたため、彼女に受け入れられていないことを実感し、落胆した。

ウ 来島京が河野女史の主張によって敗北を受け入れ涙を浮かべたことに驚いたが、来島が懸命に涙をこらえていることよりも河野女史の話の続きが気になるので、素知らぬふりをした。

エ 来島京が河野女史の熱意に感動して涙を浮かべていることに戸惑ったが、河野女史と来島の二人がお互いを認めあっている様子に安心したため、彼女たちをそっと見守ろうとした。

(6) ……線Ⅰ「航太の脳裏に、……浮かんだ」、Ⅱ「さっきの、日記を買い込んだ……そのフードの上で揺れている」とありますが、両者では日記を手に行く河野女史の姿に変化が見られます。「毅然と歩く」姿が「弾んだ足取り」に変化したことなどから河野女史に対する航太の印象はどのように変わったと言えますか。四十字程度（句読点や符号も字数に数えます）で書いて答えなさい。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

豊前国住人太郎ぶせのくにのたろう*入道といふものありけり。^①男なりける時、つねに猿を射けり。ある日山をすぐるに、大猿ありければ、木に追ひのぼせて射たりけるほどに、あやまたず*かせぎに^②射てけり。すでに木よりおちむとしけるが、なにとやらむ^③物を木のまたに^アおくやうにするを見れば、子猿なりけり。おのがぎずを負ひて土におちむとすれば、子猿を負ひたるをたすけむとて、木のまたに^イすゑむとしけるなり。子猿は又、母親につきて^④はなれじとしけり。かくたびたびすれども、なほ子猿つきければ、もろともに地に^⑤おちにけり。^⑥それよりながく猿を射る事をばとどめてけり。

〔橘成季「古今著聞集」より〕

〔注〕入道＝仏門に入った人。
かせぎ＝木のまた。

(1) 線ア「おくやうに」・イ「すゑむ」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

(2) 線①「男」・④「はなれじ」の本文中の意味として最も適切なものを次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

①「男」

ア 成年に達した若い男子 イ 出家していない男性

ウ 男性 エ 夫

④「はなれじ」

ア 離れまい イ 離れよう

ウ 離れてしまう エ 離れないだろう

(3) — 線②「射てけり」・⑤「おちにけり」の主語として最も適切なものを次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 太郎入道 イ 大猿

ウ 子猿 エ 大猿と子猿

(4) — 線③「物」とは、何だったのですか。本文中から書き抜いて答えなさい。

(5) — 線⑥「それよりながく猿を射る事をばとどめてけり」とありますが、その理由として適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。
ア 一度に二匹の猿を捕らえ、あまりのあっけなさに興味が薄れたから。
イ 木の上の猿を射ると、頭上に落ちてきて危険だから。
ウ 猿の母子の情愛の深さを知り、強く心うたれたから。
エ 猿の母子の様子を見て、生き物を殺すことの罪を悟ったから。
オ 猿という動物の執念深さを知り、たたりが怖くなったから。

4 次の熟語の成り立ちの説明として最も適切なものをあとからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(1) 絵画	(2) 往復	(3) 犯罪	(4) 不安	(5) 厳禁
(6) 育児	(7) 縦横	(8) 未熟	(9) 満足	(10) 適温

ア 反対または対の意味を表す漢字を重ねたもの。
イ 上の漢字が下の漢字の意味を打ち消しているもの。
ウ 同じような意味の漢字を重ねたもの。
エ 上の漢字が下の漢字を修飾しているもの。
オ 下の漢字が上の漢字の目的・対象などを示すもの。

5 次のそれぞれの文の — 線部の漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字に直して書きなさい。

(1) 豊かな暮らしを享 <u>受</u> する。
(2) 夢と現実が交錯する。
(3) 既に日は沈んで <u>いる</u> 。
(4) 二人の仲がケン <u>ア</u> クになる。
(5) 無実のシヨウコを見せる。
(6) 自らの行動をハ <u>じ</u> る。

6

「都会には都会のよさがあり、田舎には田舎のよさがある」と言われます。あなたは、自分の住む場所として選ぶとすれば、都会と田舎のどちらを選びますか。あなたの考えがよくわかるように、筋道立てて書きなさい。ただし、次の(1)～(5)の〈条件〉に従うこと。

〈条件〉

- (1) 原稿用紙の正しい使い方に従うこと。
- (2) 題名は書かなくともよい。
- (3) 都会と田舎のどちらを選んだかがはっきりとわかるように書くこと。
- (4) 選んだほう、選ばなかったほうについてそれぞれ理由を明らかにして書くこと。
- (5) 百五十字以上二百字以内で書くこと。

(これで問題は終わります)